歴史的事象の背景や影響について、多面的・多角的な考察を促す授業の工夫
－ICTを活用した情報の取り出しと発表活動を通して－

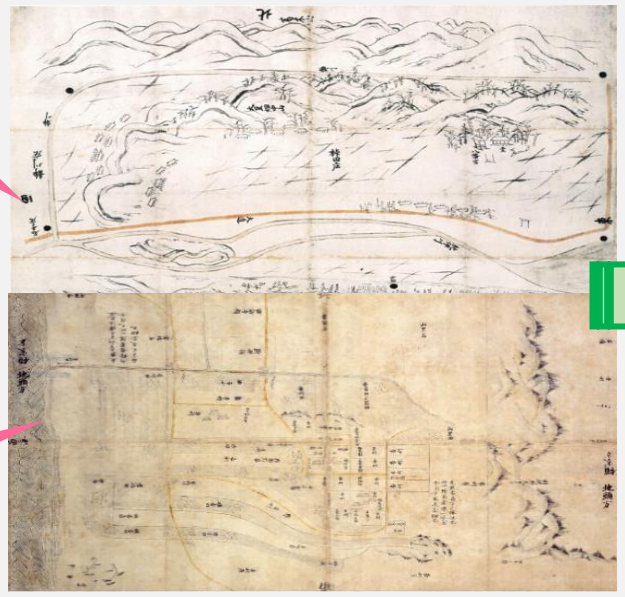
特別研修員　地理歴史　岡田明久（高等学校教諭）

≪手立て１≫　ICTを活用し、学習課題に対する初見の資料や加工した画像から情報を取り出す

【生徒の課題】
①知識の習得のみにとどまっている
②歴史的事象の背景や影響について、考える力が弱い

≪学習課題≫　荘園絵図が多く描かれた理由と2枚の絵図を比較して特徴や違いを挙げる

紀伊国桛田荘絵図
（1183年作成）



【ICTの利点】
・初見の資料を提示することができ、生徒の興味・関心の向上へつなげられた
・学習課題の説明を容易にし、生徒の積極的な活動に結びつけられた

※生徒が初見の資料
薩摩国日置北郷絵図（1324年作成）

（生徒の意見）
【多く描かれた理由】
・一人一人の荘園の領域を示す
・土地管理をしっかりするため

【２枚の特徴や違い】
・下の荘園絵図の方が、上の絵図よりも詳細に描かれている
・下の荘園絵図には、名前や土地区分などが明記されている

≪手立て２≫　取り出した情報をもとに、学習課題に対する班の意見をまとめ発表する

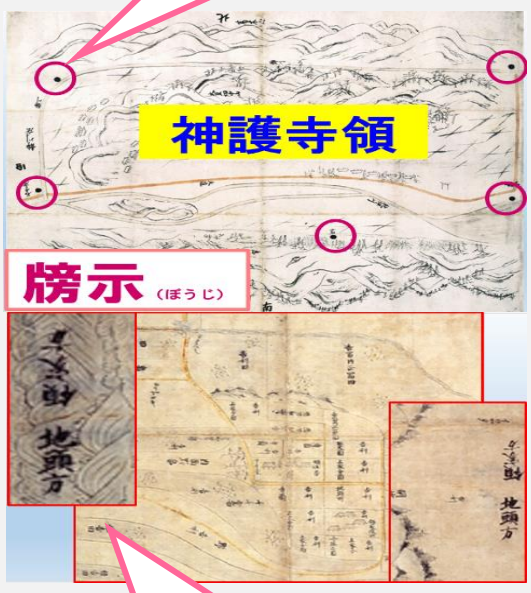
取り出した情報を班でまとめ、２枚の荘園絵図の違いが生じた理由を考察し発表する

情報のまとめ、
違いを考察

（生徒の意見・発表）【荘園絵図の違い】
・境界でもめごとが発生
・税を免れようとするものが存在
・力関係が地頭＞荘園領主となり、奪われないようにするため
・地頭・荘園領主が、土地管理が出来るようにするため

補足説明

黒点部分＝『牓示』に
ICTで丸印で強調



『領家方・地頭方』の文字
部分を切り取り・拡大

【ICTの利点】
・生徒が気づけなかった『牓示』や『領家方・地頭方』の文字を提示し、確認することができた

≪手立て３≫　発表活動で出された意見をもとに、多面的・多角的に考察する

荘園絵図の変遷の背景や影響について、多面的・多角的に考察する

≪花押の説明≫

伯耆国東郷荘の下地中分図
（13世紀半ば作成）

【ICTの利点】
・下地中分の特徴を、効果的・短時間で説明し知識の定着につなげられた

・不鮮明な部分の朱線の確認も容易であった

≪下地中分の朱線の確認≫

薩摩国日置北郷絵図
※生徒が初見の資料

【考察した結果】
・１枚の荘園絵図から、地頭の荘園侵略が幕府権力の拡大を示すことに気付くことができた
・さまざまな情報の取り出しを通じて、絵図などの資（史）料の重要性に気付くことができた

【成果】
・ICTを活用することで、多数の資料提示が容易となり、生徒の多面的・多角的な考察につなげられた。
・資料の加工が容易に出来、生徒へ効率的な説明ができた。

【課題】
・生徒の実態にあった発問の内容や、資料・画像の選択をする必要がある。
・情報の取り出しができず、班での活動が不十分な班があった。